

## 第 22 回鎮守の杜フェスタ

日 時 2019年6月8日(土)  
場 所 京都市北区 北野天満宮境内  
天 候 曇り一時雨 気温 24℃  
参加者 33名 スタッフ 8名 合計 41名



北野天満宮と言えばウメ、境内には 1500 本植えられているそうだ。6 月上旬はウメの収穫の最盛期だ。多くの神官が収穫に大わらわだった。



午前中の下見の結果、北野天満宮一の鳥居付近から歩き始め、その後青もみじで有名な史跡御土居の散策路をめぐるコースを設定した。

一の鳥居から楼門までは、比較的自然が残っていて、足元の植物を使って草花遊びを参加者に体験してもらった。

鎮守の杜フェスタの参加者と私たちは正に一期一

会だ。参加者の大半は高齢者ということで、二人一組でムラサキカタバミやオオバコの茎を絡めてどちらが強いか、やってみたり、カタバミの実ができていたので、触ったらはじけることを体験してもらったりした。子供の頃遊んだ記憶が蘇るのではないかと期待していたが、初めての体験だという方が多かった。





石垣の僅かな割れ目にもたくましくムラサキカタバミが咲いていた。これには、参加者の皆さんも植物の柔軟さやしたたかさに驚いていた。

史跡御土居に入っすぐ、神社にはなくてはならないサカキがあり、ちょうど今が花の見ごろである。ツバキやサザンカのようなよく目立つ花ではなく、人知れず咲いているという感じだが、においはいいので、みなさんに嗅いでもらった。

しばらく歩くとドクダミの群落があり、小さな花でも多くが集まって咲いていれば、美しくみなさんしばらく無言のまま観察していた。

普段私たちが実施している友の会の自然観察とは、参加者との向き合い方はかなり違ったものになったが、史跡御土居のなかに身を置き、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込み、森閑とした森を散策しながら、樹齢400年を超えるといわれるケヤキの大木をしばし見上げ、何の説明もすることなく、ただただこのような悠久の時間を共有していることが、本当の自然観察なのかもしれない。

文責 (弓削俊彬)

